

多文化共生事業事例集

年度
30

団体名	東京都豊島区	助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業	ジャンル
		事業費総額 3,307 千円	意識啓発・地域づくり

事業名 外国籍区民のための行政・地域情報動画の制作・発信事業
～はじめて豊島区にすんでみた【留学生編】～

特徴 来日予定者及び来日まもない留学生が、生活に必要な基本情報を SNS で手軽に得られるように、動画を制作して YouTube (ユーチューブ) にアップし、国内外に向けて発信した。

事業のポイント

◇豊島区の外国籍住民は、「留学」の在留資格者が最も多く、非漢字圏出身者が急増している。そこで、来日予定または来日間もない留学生に必要な情報を届けて不安を解消してもらうため、「税金・健康保険」「生活費の目安」「相談窓口」など 10 テーマの動画を 7 言語で制作し、YouTube (ユーチューブ) で国内外に発信した。今回の動画制作には留学生が全過程に関わり、完成後は留学生が通う専門学校や大学で上映を行った。

事業の背景・目的

◇豊島区は外国籍住民の急増を受けて「外国人区民意識調査」(2015)、「外国人区民意識ヒアリング調査」(2017)を実施、「多文化共生推進基本方針策定検討委員会」(2018)を開催して課題等の意見を聴取した。その結果、3 言語(英・中・韓)だけでは不十分であり、かつ SNS での情報発信が求められていることがわかった。そこで区内の専門学校に協力依頼し、在籍する留学生の視点に立った動画を留学生と協働して制作した。

事業の概要

- (1) 2018 年 4 月：専門学校に協力依頼・留学生ヒアリング実施
豊島区内の早稲田文理専門学校に動画制作に関する協力依頼を行い、在籍する留学生に対して、来日前に知っておくべきこと、来日間もない留学生にとって必要な情報について聴取し、動画に取り上げるテーマについての検討を行った。さらに「豊島区多文化共生推進基本方針策定委員会」において、委員からテーマや内容に関する助言等を受けた。
- (2) 2018 年 5 月：関係各部署等への聴取及び専門家からの助言
関係各部署等から「留学生に伝えたいこと」を聴取した内容と「留学生が知りたいこと」とのバランスを取りながら内容の検討を行った。また、多文化共生マネージャーや地域国際化推進アドバイザーから、効果的な情報提供の方法や動画撮影に関する助言等を受けた。
- (3) 2018 年 6 月：動画の台本(シナリオ)作成
留学生のニーズの高い 6 言語(中国語、ベトナム語、ネパール語、ビルマ語、韓国・朝鮮語、英語)に翻訳する元となる台本を、「やさしい日本語」のように簡単でわかりやすい日本語に直して作成した。
- (4) 2018 年 7 月：留学生と豊島区職員が出演して動画を撮影
- (5) 2018 年 8 月：地域国際化推進アドバイザーからの最終助言
留学生の心に響くネーミングの工夫や動画の作り手の姿勢等を学んだ。
- (6) 2018 年 10 月：完成動画を YouTube (ユーチューブ) で発信
- (7) 2018 年 11 月：早稲田文理専門学校での上映会(約 100 名)
動画制作に携わった留学生が同じ立場の留学生に思いを伝えた後、動画を観た留学生たちからの疑問・質問に対して、区の職員が直接答えた。
- (8) 2018 年 12 月：区民向けシンポジウムで上映(約 50 名)
区内の立教大学で区民、町会、NPO、企業、地域活動団体、学生等に対して豊島区が多文化共生施策の報告と動画を上映し、質問等に答えた。
- (9) 2019 年 1 月～2 月：区内日本語学校及び専門学校に DVD 配布

はじめて豊島区に住んでみた(留学生編)

日本語 English 中文 越語 印地語 英語

来日まもない留学生が、知りたいと感じた 10 テーマの生活基本情報についての動画です。

- (1) みんな健康保険にはいらないと いけないんだって! (税金・健康保険)
- (2) あなたの健康が心配です。(医療・保健)
- (3) こんなにお金がかかるって、しらなかった! (生活費の目安)
- (4) 日本のトイレはなぜだらけ! (トイレ)
- (5) どうして、道にゴミがないの? (ごみ)
- (6) 交通費をやすくする方法は? (交通)
- (7) 地震がきたらどうしよう! (防災)
- (8) あなたは、ひとりではありません。(相談窓口)
- (9) ともだちをつくりませんか? (日本語学習と交流)
- (10) 豊島区を楽しもう! (豊島区を楽しむ)



動画の DVD と動画の QR コード付きパンフレット (7 言語・10 テーマ)



動画のテーマや言語選択できるメニューページ <http://www.city.toshima.lg.jp/417/jp/movie.html>

事業実施における工夫点・事業の成果等

◇来日前に必要な行政・地域情報を届けたい

動画制作の前年の2017年に、在日外国人向けのエスニックメディア(ネパール語)に留学生の実態についてのヒアリングを行ったところ、多くの留学生が来日前に日本の税金や国民健康保険制度、生活費の目安、生活習慣などについての情報を得ておらず、来日後に想定していなかった出費や生活習慣に悩む方が少なくないことが判明。

そこで、非漢字圏の国から日本への留学を考えている方にも、来日前に必要な情報を無料かつ手軽に入手できるものとしてYouTube(ユーチューブ)での動画発信を考え、事業実施に至った。

◇SNSによる情報拡散と授業での活用をねらう

留学生のほとんどが持っているスマートフォンでの動画の視聴、ツイッターやフェイスブックなどに

よる拡散・共有を可能とするため、ひとつの動画の時間をコマーシャル程度の約1分に設定した。

また、日本語学校等の授業内で動画を上映する場合、全10テーマを流しても約10分で終われば、入学時のオリエンテーションや授業教材としての活用が進むことを想定して動画の時間を短めに設定した。

◇専門学校の授業で動画を上映

豊島区内にある早稲田文理専門学校で、3つのクラスの留学生を対象に動画を上映した。時間配分は10テーマの動画上映に約10分、質疑応答に約20分で合計30分である。

同時に留学生へのアンケートも実施し、動画の感想や生活上の課題を聴取するなど、外国人住民施策を推進する上で欠かせない当事者へのニーズ調査を行うことができた。

今後の課題・将来に向けての展望等

◇動画発信の課題

留学生が来日する前に、来日後すぐに必要となる行政・地域情報を手軽に入手できるように動画をYouTube(ユーチューブ)で発信したが、中国では視聴できないことがわかった。

今後は、中国でも視聴できるYouTube(ユーチューブ)以外のツールも活用したい。

◇今後の課題

今回は「留学生(単身者)」をターゲットに動画を制作したが、次回は「家族(子どもがいる世帯)」を対象としたものを制作予定である。

但し、いつでも・どこでも・だれでも簡単に入手できて理解しやすいツールがあれば、動画以外の新たな手法も視野に入れて検討したい。



2018年11月2日

早稲田文理専門学校で動画を授業中に上映



動画に出演した留学生が同じクラスの仲間に挨拶をしている様子

事業担当者のふりかえり

- ⇒ 多言語による情報提供を行う場合には、行政が伝えたい内容だけでなく、当事者が何を必要としているかという視点も忘れてはいけないことを改めて感じた。
- ⇒ YouTube(ユーチューブ)での再生回数は全言語のトータルで約6,000回(2019年12月現在)とそれほど多くはないが、ベトナムなど国外からのアクセス件数が多かったため、来日前に情報を届けるといった目的は一定程度果たせたのではないだろうか。